

経済 TOPICS

No. 231

(2024年5月23日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産に持ち直しの動きがみられるものの、個人消費や輸出が弱めの動きとなっているほか、設備投資も横這い圏内の動きにとどまっていることから、全体としては回復の動きが弱まっている。消費者物価は、生鮮食品を除く食料価格の落ち着きを主因に、前年比プラス幅が縮小している。この間、海外での軍事紛争の拡大や中国経済の減速に伴う影響が懸念されるなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産が横這い圏内の動きを続けるなか、個人消費や設備投資が底堅く推移していることから、全体としては緩やかな回復が続いている。消費者物価は、下げ止まりの状態が続いている。

（参考）物価動向

〈日本〉 エネルギー価格が鎮静化するなか、生鮮食品を除く食料価格の落ち着きを主因に、前年比プラス幅が縮小している。この間、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きは続いている。

〈米国〉 食料やエネルギー価格が鎮静化するなか、人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力が続いていることから、全体としては下げ止まりの状態が続いている。

（注）本稿は、5月17日時点で取得可能なデータに基づき作成。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング